

札幌の魅力を育む



民間の調査で魅力的な都市として常に上位に入る札幌。そこには、市民や観光で訪れる方のために力を尽くす人々の姿があります。このページでは札幌の魅力を陰ながら支える“匠”にインタビュー。その思いに迫ります。

第2回 雪まつりの大雪像職人

おしのみ 推之見 栄治さん

平成23年から市の大雪像制作団の隊長に就任。今年は大通公園7丁目
の大雪像作りを指揮する。63歳。

細部までこだわった大雪像でみんなを笑顔に

地上11mで大きな雪の塊と向き合うのは、4年前から大雪像制作団の隊長を務める押之見さん。現場での指揮を執るほか、ボランテアに用具の使い方や雪の削り方を丁寧に教えており、周囲からの信頼は厚い。本格的に大雪像の制作に携わるようになったのは、平成15年に自衛隊員として勤務していたとき。それまで経験のなかった雪像作りは、新たな挑戦だったと語る。

大雪像の制作で特に意識しているのは、建物やキャラクターを忠実に再現すること。「今年のマニラ大聖堂のような建物を手掛けるときは、現地に赴いて歴史的な背景まで勉強するんだよ」。その言葉からは雪像作りに対する真摯な姿勢が伝わってくる。
10年以上、大雪像を作り続ける押之見さんだが、壁に突き当たったこともある。「苦しかったのは平成23年のライオンキング。どうやって高さ8mものライオンの顔に迫力を出すか、何度も顔の角度を変えて工夫をしたんだ」。そんな押之見さんの励みは、大雪

像が完成したときの達成感と、それを見る人々の笑顔。

「制作中の雪像が雨で解けな
いか、開催に間に合うか、ドキドキしつつ放し。だからこそ、思い描いた通りの大雪像ができて、訪れた方みんなに喜んでもらえる」と、心の底から感動するんだよ」と照れくさそうに言う。

「毎年20万人以上が来場する雪まつりで失敗は許されない。制作団全員で力を尽くし、より多くの人を魅了する大雪像を作っていきたい」。熱い思いが詰まった大雪像は、冬の柔らかな光に照らされ、輝きを放つだろう。



の裏話

大雪像作りに欠かせない 40分の1の縮小模型

雪像作りに入る前に、木材で精巧な縮小模型を作製。これを基に作った実寸大の型を使って雪を削り、大雪像を完成させます。



今年手掛けるマニラ大聖堂の模型。押之見さんを含めた6人で約3週間かけて制作した

さっぽろ
雪まつり

期間2月5日(木)～11日(祝)

場所大通公園1丁目～12丁目、つどーむ(東区栄町885)、駅前通南4条～南6条

詳細同実行委員会 ☎281-6400

雪まつりの見どころはホームページでもご覧になれます

さっぽろ雪まつり

検索

※14ページの「今月の話題」もご覧ください



©HBC